

## ◆ 「自然科学書フェア 2022」 視察報告 ◆

今年の自然科学書フェアは、9年ぶりに紀伊國屋書店札幌本店にて、2022年4月20日～6月19日の2か月の長期にわたる開催となりました。

フェア終盤の6月3日、村上副理事長、吉野販売・出展委員長、鈴木販売・出展副委員長に私を加えた4名で視察訪問し、今回フェアを担当していただいた志村課長はじめ、佐藤営業部長、平岡店長と面会しました。COVID-19の状況が昨年に比べやや収まりつつあったので、設営については当協会からの手伝い8名に、志村課長を含めた9名で行いました。事前の仕分けが出来ていたため、作業は順調に進みました。フェア会場は入口正面にある新刊書・話題書コーナーの右手、お客様が振り返ると、棚20本のスペースに、50社1,180点2,599冊の本が並び、お店の外からも黄色のポスターがよく目立っていました。

志村課長からは下記のような経過報告がありました。

- ・当初売行きは好調で、新聞広告を掲載した週の売上が一番良かった。GW後半では店頭は落ち着いた雰囲気となり、期待していたほど来客数が伸びず、その後徐々に下がってきてはいるが、棚あたりの売上で見ると決して悪い数字ではない。
- ・昨年と比較すると、巣ごもりのインドアからアウトドアへと行動様式が変化しているのかもしれないが、人は出ていても書店へ足が向いていない（他店にも共通？）。
- ・フェア棚を常に注意してみていることは出来ないが、棚の本の状態を見ると、お客様がご覧になられた形跡が残っているので、これからは期待したい。フェア期間が2か月と長いので、新たにアイキャッチを考え、お客様をフェアエリアに呼び込みたい。
- ・外商関係では図書館など店頭選定でフェアのご案内、得意先様へのプッシュをしており、北海道薬科大学では理事長に学内でのフェア告知を約束していただいた。

売上はフェア開始から20日時点で360冊、33日時点で535冊。最終的には866冊で、フェア小委員会で企画したフェアでは過去最高の数字を記録しました。

反省点として、長期間のフェアでは、中盤以降のテコ入れが必要なのを痛感しました。

今回は新たに、紀伊國屋書店様のBookWebProで、フェア案内とフェア全点の紹介「教育と研究の未来」でフェアの記事広告、メルマガ配信をしていただきました。目に見える効果は分かりませんが、紀伊國屋書店様全体でお取り組みいただきました。何かしら今後の売上に繋がると、期待したいと思います。

(販売・出展委員会 フェア小委員会 幹事：石川省二)



左より、吉野委員長、志村課長、鈴木副委員長、村上副理事長、石川幹事